

令和7年度 第4回長坂小学校運営協議会

1. 開催日時

令和8年3月4日（水）16：00～ 会場：北杜市立長坂小学校図書室

2. 議事

(1) 学校評価について *今年から年1回実施

【学校からの説明】

すべての大項目について、概ね目標を達成できている。項目によっては「わからない」と回答している保護者が見られる。今後も様々な場や手段を通して情報を開示したり、外部機関、外部人材との連携を図ったりしながら対応していく。なお本年度、学校外より講師あるいは学習ボランティア等で授業に協力して下さった方は今日までに、約180名となっている。

個別の記述の中にある質問に対しては、校長が個別に連絡し、保護者との連携を図りながら、それぞれの声に寄り添うようにしている。

(2) 委員による評価（質問や意見）

【委員による学校評価に関する意見・助言】

委員A：タブレット端末の持ち帰りの様子（状況）について説明してほしい。

→持ち帰りの状況は、学年によって異なる、主な用途は連絡、課題（宿題）となっている。保護者からの個人的な連絡は、連絡帳や電話を利用している。

委員A：スクールカウンセラー（S.C）の利用状況について説明してほしい。

→S.Cは、原則月に2・3回、水曜日又は木曜日の午前中に来校。来校日であれば、保護者でも児童でも、職員でも利用できる。利用方法等については、本年度も複数回にわたって文書によって周知している。本年度は、4年生以上の児童と全員面談を行っている。3年生以下にも広げていきたいが、年間の相談時間数が決まっているので難しい状況。

委員A：ステップルームの状況について説明してほしい。

→ステップルームで、1日のほとんどを過ごす児童は4名ほど。部分利用する児童は数名。昨年度と比較すると、学級でやるべきこと、ステップルームでできることの棲み分けができてきている。通っている児童も、教室に行く場面が確実に増えている。学校に来られるようになったり、教室にいけるようになったり、効果的に運用できている。ステップルームは閉鎖された空間ではなく、他者が入ることのできるゆるやかな空間になっている。長期欠席児童の内、昨年度の同時期に比べて、「不登校」に該当する児童数は10名ほど減っている。

委員B：保護者の意見として、「PC（一人一台端末）の使用制限を厳しく」とあるが、実際遊んでしまうような環境があるのか。

→基本的には市教委でのフィルタリングによって、教育に関係のないサイト等にはアクセスできない環境にはなっている。しかし、児童が抜け道（特別な方法）を用いて利用しているケースがあった。

委員C：質問に対して「わからない」と回答している家庭ほど、大切なお便りや情報を読んでくれているのではないかと。そのあたりは家庭の教育力が必要だと考える。

委員D：「『家庭評価』が必要ではないか」という意見がでていいる。こういったものを、PTA等が中心となって実施していても良いのではないかと考える。

委員C：「保護者もあいさつをしているか」という質問項目があってもよい。親がしっかり挨拶できると、その子供もできる。そういう促し方も大切であり、意識が変わるのではないかと。

委員D：保護者が学校に関心をもつこと、実際に足を運ぶことが大切。子供が言っていることが全てではない。真偽を判断するためにも先生と会話することが大切。子どもの心を育てることが保護者の役割。話す時間がないから食い違いがおきる。保護者の意識改革が必要、学校に丸投げしている人ほど「わからない」と回答しているのではないかと。

委員E：クマ騒動等、危機管理の面を含めて対応が多く、現場の難しさがわかる。保護者のコメントを受けて新しい方向性、視点となったものはあったか。

→ホームページの積極的な活用を含め、様々な形（手段）を用いて、学校の状況（様子）を伝えている。本年度は学年（学級）通信に本校ホームページのリンクを掲載し、少しでも多くの方にご覧いただく工夫している。

→来年度は、気軽に授業（学習）の様子を参観できる機会を増やしたい。例えば、昨日行った「6年生に贈る会」など良いと考える。また、特別な学習活動だけではなく、気になることがあれば、日常的に参観してもらいたい。

→今日的な教育的価値を大切にしながら、更に多様な考え意見を参考にしながら、決して一つではない正解を求められるのが学校現場。今後も保護者並びに地域を始め、多くの方々と対話をしながらやっていこうと考える。

委員F：自由記述に対するやりとりをする中で、行き違いを少なくして、よりよい方向に進んでいくのではないかと。こういうやりとりがある事自体が大切だと考える。

委員A：これまでの意見をまとめると、「課題」を学校に任せている様子が見られる。家庭は家庭、地域は地域でできることがあり、それぞれが責任をもって行う。だからこそ、連携することや、それぞれの力を取り戻すことが大切。

(3) コミュニティ・スクール（C・S）便りについて

これまでC・S便りには、地域とのつながりがある「親父の会」など、長坂小の特色ある取り組みを掲載してきた。HPが充実しているので、そのことについても触れる予定。話題があれば提案していただきたい。

→あいさつへの取組など、今日出た話題に触れてもよいのではないかと。地域の方々が地道に行っていることを、多くの人々に知ってもらえる内容が良いと考える。

(4) 来年度の学校経営の方向性について

教育課程に関しては、保護者から、いろいろな声をいただいている。今後も対話を通して理解してもらおうようにする。

委員D：来年度、「スケート教室」はあるのか。

→ある。スケートは八ヶ岳南麓のこの地域の冬季におけるスポーツとしての歴史があり、北杜市としてもスケート場（小淵沢）を維持している。

委員A：「スキー教室」の件について、保護者や児童の反応はどうか。

→個人的に寄せられた保護者からのご意見は、半々の印象。教職員の働き方改革と関連付けて考える方がいらっしゃるが、それは全く関係ない。

→子供には今後説明していく。

委員D：保護者の経済的負担に関しては、積立を活用するなど、やり方を工夫してみてはどうか。この地域ならではの経験をさせてあげたいと考える。安全面を考えると難しいこともある。

→多様なリクエスト、例えばスキーではなくスノーボードをさせたい等に対して、学校がどこまで対応する必要があるかという思いがある。

→積立金に関しては、既に令和6年度に金額をあげている。現在のインフレ等の社会状況から、今後も引き上げの判断を迫られることが想定される。だからこそ、現在のようなタイミングでは、保護者負担軽減を考えたい。

委員E：良い、悪いは立場によって違う。様々な意見があることは仕方ない。その中で動くしかない、それでうまくいかない時には、またその時のスタッフで考える。難しい判断が迫られている。

委員A：学習発表会を実施しない説明理由については、「公開研究会があるから」だけでは納得してもらえないかもしれない。公開研究発表会が、どのようなものなのか、多くの方は知らない。期待もあるので丁寧に説明する必要がある。決して学校としての判断を否定しているわけではない。

(5) その他

○来年度の学校運営協議会の委員の選出について

○今後の予定（卒業式・入学式等）について

以上